



2026 年 7 月 6 日

株主・投資家の皆様へ

**暗号資産ディーリング事業の撤退および
今後の経営体制・財務基盤の再構築に関する経営陣の想い**

平素は、当社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本日（2026 年 7 月 6 日）、当社は「暗号資産ディーリング事業の撤退に関するお知らせ」および「第三者割当による第 1 回無担保社債（私募債）及び新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及び第 19 回新株予約権の一部取得及び消却に関するお知らせ」について適時開示を行いました。

本開示は、当社の今後の生存と再成長をかけた極めて重大な経営舵切りであり、開示書類の限られた枠組みだけではお伝えしきれない、今回の決断に至った経緯と経営陣の想いを、本独自の書面にて株主・投資家の皆様に直接お伝えさせていただきます。

1. 会計監査人の不在および株価下落に関するお詫びと現状について

まず初めに、前任監査法人の辞任以降、現在に至るまで新たな会計監査人の選任手続きが完了していないこと、およびそれに伴う不確実性から株価が大幅に下落し、株主・投資家の皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます。

現在、当社は後任監査法人候補との間で透明性の高いガバナンス体制の構築に向けた最終協議を誠実に進めております。

一刻も早く監査体制を正常化させ、皆様からの信頼を取り戻すべく、経営陣一丸となって全力を尽くしております。

2. 監査人との対話に基づく「管理部体制の刷新」と「適正な監査環境の整備」

当社は、これまでに監査法人との間で生じたコミュニケーションの齟齬を厳粛かつ真摯に受け止めております。現在、後任監査法人候補との具体的な協議を進める中で、暗号資産

ディーリング事業の撤退に留まらず、当社の「管理部体制のさらなる強化・刷新」についても具体的な議論を詰めております。

過去の反省に基づき、監査現場における一切の不適切な事象を排除し、監査人が客観的かつ円滑に監査を遂行できる「適正な監査環境」を確実に整備・定着させることを、ここに強く明言いたします。

トップマネジメントが直接ガバナンスの指揮を執り、二度とこのような不条理なコミュニケーション不全を起こさない健全な組織へと生まれ変わります。

3. 暗号資産ディーリング事業からの撤退という「苦渋の決断」とその経緯

当社はこれまで、NYANMARU Coin (\$NYAN) や WOWBIT (\$WWB) をはじめとする暗号資産への投資・保有（ディーリング運用事業）を主要事業の一つと位置づけ、収益の拡大を図ってまいりました。

しかしながら、ミームコインを中心とする暗号資産の評価および会計処理を巡っては、監査法人との協議において継続的かつ極めて慎重な判断が求められる状況が続いておりました。この監査上の不確実性こそが、現在の監査人不在を招き、当社の「上場維持」そのものを揺るがす最大のボトルネックとなっていたのが実態です。

当社経営陣は、何よりも「上場を維持し、株主の皆様の権利と投資価値を守ること」が最優先の使命であると考えております。

監査法人候補との最終協議を進める中で、不確実性の高い暗号資産ディーリング事業の継続可否は、当社の存続を分ける一線でありました。

結果として、これ以上のリスクを引きずることなく、過去の課題と決別し、上場維持を確実に成し遂げるための「必須かつ不可避の決断」として、本日、同事業からの全面撤退を決議いたしました次第です。

しかしながら、当社がこれまで培ってきた Web3 領域における技術や可能性をすべて放棄するわけではございません。

今後は、価格変動リスクや会計上の不確実性を伴う「ディーリング（運用の成否）」からは手を引くものの、Web3 事業部としての「暗号資産に関連する革新的なプロダクトの開発」や、各種「関連エコシステムへの技術・開発支援」は継続して推進してまいります。

トークンホルダーの皆様をはじめとするエコシステム参加者の皆様の期待に応え、より健全で透明性の高い形で Web3 の世界に貢献してまいります所存です。

4. 新たな資金調達の実施と、今後の見通し・再生への誓い

監査法人の不在に伴う株価下落により、今年 2 月に実施した第 19 回新株予約権による資金調達は当初の予定通りに進まず、当社の財務および資金繰りは非常に厳しい局面に直面いたしました。

これを打開するため、本日、第 19 回新株予約権の一部を取得・消却するとともに、新たな割当先を迎えたりファイナンス（第 1 回無担保社債および第 20 回新株予約権の発行）を発表いたしました。この調達により、当面の資金繰りを完全に安定させ、後任監査法人の早期選任と上場維持のための強固な財務基盤を確保いたします。

今後は、不確実性の高かった暗号資産ディーリング事業から完全に手を引き、透明性が高く、これからの時代に確実な価値を生み出す最重点事業へと経営資源を集中投下してまいります。

今回の決断は、当社にとって過去の膿を出し切り、生まれ変わるための「第二の創業」です。道のりは決して平坦ではありませんが、新たなガバナンス統括のもと、誠実で嘘のない経営を徹底し、必ずや業績の回復と企業価値の向上を成し遂げ、皆様のご期待に添えてまいります所存です。

株主・投資家の皆様におかれましては、現在の厳しい状況を乗り越え、不退転の覚悟で未来を切り拓く当社を、何卒厳しい目で見守りつつ、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026 年 7 月 6 日

abc 株式会社

代表取締役社長 松田 元

取締役副社長（ガバナンス統括責任者） 片田 朋希

経営陣一同